公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	㈱ゆうゆうヘルプサービス　放課後等デイサービス　わいわい倶楽部			
○保護者評価実施期間	令和　8年　4月　1日	～	令和　8年　9月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	２3名(兄妹姉弟3組）20件	（回答者数）	18件
○従業者評価実施期間	令和　8年　4月　1日	～	令和　8年　9月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和　8年　10月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	山々が見渡せて自然が豊か、公園も近隣にたくさんあり四季を感じながら身体を動かすことが出来る。	子供達と山々を散策しながら枝や松ぼっくり、ヨモギ等を採り工作調理実習を行ったり自然に触れる活動を取り入れている。意思決定支援、子供達で今日は何処で何がしたいかを子供たちで会議行い、やりたい事（デマンド）を汲み取れるよう工夫している。	曜日により活動内容に変化を付けたり行動範囲が拡がるように適した場所をリサーチしすぐに行動できるよう対応していきたい。
2	公共交通機関を利用してのお出かけを計画、その他イベントも多く季節に合わせたお出かけ、工場見学やイベントを実施している。	少人数グループに分け子供たちが意見を出し合いiPadを使って検索する方法や公共交通機関について学べるよう取り組んでいる。 その他お出かけイベント等も子供たちが楽しめるものを考え変化に富んだものを企画実施している。	公共の場でのマナーの習得。今後はバスや電車での移動も子供達主体で実施して行きたい。
3	近隣の就労事業所での職場体験・事業所主催地域活動イベントでの店頭販売体験やお買い物体験。	高学年の子供たち対象で将来の就労へ対する意識向上に繋がるように。 店頭販売体験では笑顔と大きな声で挨拶が出来るように。	長期休校日を利用して年二回は職場体験が出来るよう就労事業所さまへのコンタクトをとっていきたい。
4	学校や家庭では話しづらい事、ここでなら話を聞いてもらえると感じてくれていること。難しい道徳ではなくここで過ごすうちに自然とモラルや社会性が身に付く場所。	子どもたちの話を遮らない。まずは話を聞いてあげる事。 月に一度「徳をツムツム会議」を実施、子供たちと一緒に仲間の良い所を見つけ合い発表し、自己肯定感に繋げれるように。	「発表する」機会をもっと増やして気持ちを言葉にする取り組みを増やしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別の支援室が設けられない。	構造上個別の支援室が難しい。	簡易的なパーテーションなどで仕切れるように準備していきたい。
2	他の児童クラブや地域の子供たちとの交流が難しい。	そもそもの制度や目的の違い（支援と自由活動）や交流での相互作用の不明確から行動に移すのが難しい。	公園などでの少人数からの交流（知らない子がいたら声を掛けて一緒に遊んでみたり!!）地域イベントでの交流を試みたい。（わいわいフェアに来てくれた同じ学校の子に話しかけてみたり!!）本人たちが望む形で!!
3	きょうだい児に対する支援・交流が難しい。	現状利用者家族からの要望が把握できておらず、実施した場合の参加ニーズも明確でない。そのため具体的な取り組みに至っていない。	保護者さまへの聞き取りによりニーズ調査を行い支援の必要性について検討していく。